



営農 担い手

JA志賀ころ柿部会で援農ボランティアを受入れました!!



12/9(月)~20(金)までの2週間、JA志賀ころ柿部会において農協観光が企画した「援農ボランティア」の受入を行いました。

参加者は第1週6名、第2週6名の計12名で、JA志賀ころ柿加工センターにおいて、ころ柿の化粧箱の作成、個包装・検品作業、個包装されたころ柿の箱詰め作業などを行いました。

最終日には、JA志賀の概要を学んだほか、JA施設や能登半島地震の被災地の見学も行いました。

参加者の方からは、「能登半島地震からの復旧・復興が思ったほど進んでいなかった。今回の援農で力になれてよかった」などのお声をいただきました。

また、JA志賀からは繁忙期の労働力を確保できたので助かったとの声をいただきました。

今後も参加者の農業体験が人手不足に悩む産地の支援として活かされるようマッチングに努めていきます。



営農 担い手

JA能登わかばで担い手コンサルティング報告会が行われました!!



JA能登わかばでは、2023年10月から管内の1つの集落営農組織を対象に担い手コンサルティングに取り組み、営農・経済・信用などのJAの部門を横断したチーム会議で経営分析やソリューションの検討を進めてきました。

昨年元旦の地震の影響による中断もありましたが、延べ10回のチーム会議を経て、1/10(金)、JA能登わかば本店でコンサルティングの最終報告会が行われました。

報告会では、後継者不在や労働力不足、反収が低いといった経営課題に対するソリューションの提案が行われ、集落営農組織の代表者からは、「当法人としての進むべき方向が見えた。本日の提案を受けてひとつでも前に進めていきたい。」との感謝の言葉が述べられました。

営農戦略室では、今後も地域の連合会と連携した担い手コンサルティングを通じ、担い手農家の経営を支援していきます。





JA加賀では、11月11日から11月末にかけて、加賀市の「くらし・しごと支援センター はるかぜ」様との農福連携に取り組み、B型就労の方を対象に、選果場にてブロッコリーの箱詰め作業を行っていただきました。（詳細は下記のとおり）

事業所の方からは「普段は、事務所の室内での作業が多く、外に出て作業することが少ないため、施設利用者にとっても新鮮な取り組みになりました。」などの声をいただきました。また、JAからも「引き続き取り組みを継続したい」との声をいただきました。戦略室として、今後も農福連携の拡大にと努めてまいります。

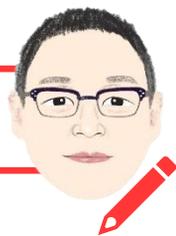
作業内容	ブロッコリーの選別作業
作業時間	13:00～2時間程度
作業人数	1日2名



本年度から、農林水産省の取組みに合わせ、JAグループでは12月～2月を『農作業安全研修実施強化期間』として設定することとしました。

JAの皆様には座談会など農業者の集まる会議などにあわせて「農作業安全研修」を実施していただきたくお願い致します。

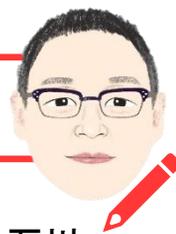
また、農業者が国の事業を活用するにあたって研修会の受講が必須要件（クロスコンプライアンス）となってきますので、農業者への周知と併せて、研修会への参加呼びかけをお願い致します。



JA石川県連(中央会・信連・全農県本部・全共連県本部)は12月23日、金沢市内のホテルでいしかわ農業振興協議会(会長:吉田一義(有限会社吉田農園代表取締役))との懇談会を開催し、双方より28名が参加しました。

懇談会では、県内8地区の農業振興協議会から地域の課題やJAグループに対する意見・要望が出され、7つの項目(資材等価格高騰対策、価格転嫁への理解促進、営農継続支援対策、農家の経営安定対策、担い手育成対策、災害復興、農協合併)毎にJA県連の各組織から回答、意見交換を行いました。

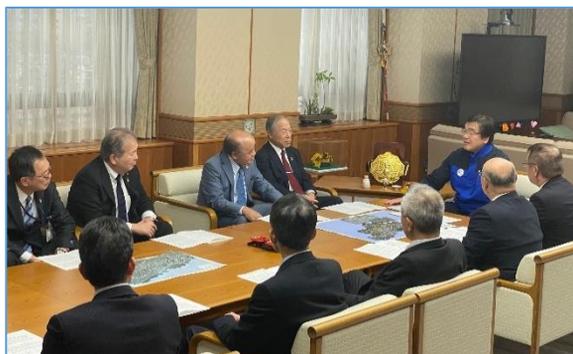
JA石川県連といしかわ農業振興協議会の懇談会は、毎年実施しており、農業者の声を真摯に受け止めるとともに、JAグループ石川の事業に反映させるべく、引き続き取り組んでまいります。



JA石川県連(中央会・信連・全農県本部・全共連県本部)は12月25日、石川県庁で馳知事に対して令和7年度の県農業関係予算要望を行いました。

JA石川県中央会の西沢会長から「自然災害からの早期の復旧・復興対策」「食料安全保障の強化に向けた国民理解の醸成」を柱に予算要望したほか、その後の意見交換では、能登半島地震や豪雨被害の状況や本県農業の課題等を伝え、JAグループ石川による様々な取り組みに対し、県行政との連携や万全な予算措置を強く要望しました。

要望に対して馳知事から「担当部署で十分に検討するとともに、JAグループと一緒に取り組みを進めていきたい」旨、回答がありました。

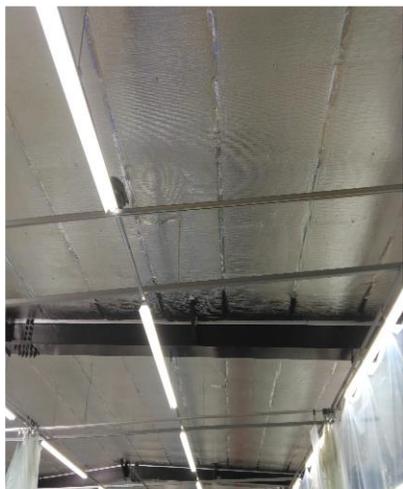




令和7年度から全農園芸種苗センターでは大玉トマトの多収栽培に挑戦することにしており、12/18(水)に灌水装置のメーカーである(株)イノチオが経営しているトマトハウスを視察し、意見交換を行いました。

【選果場の高温対策】宇宙開発にも使用されているシートを天井全面に貼り付けて高温対策をしていました。初期費用はそれなりにかかりますが、電気代を10分の1に抑えられているから、数年で回収できているとのことでした。

【栽培の作業効率化】1週間に1度、週間計画を社員が作成し、計画(青字)と実績(赤色)をホワイトボードに書き込むことで、全体の作業時間を見える化し、以降の作業の調整につなげていました。また、作業時間を圃場内のタブレットに入力することで、個々の作業時間の管理と熟練度の把握を行っていました。これらの管理を行うことで、ミニトマト出荷量600tに11万時間かかっていた作業時間を9万時間まで削減できているとのことでした。新人パートさんには、作業内容を動画で説明することで、「言った言わない」のトラブルを回避する工夫もされていました。



～2月の予定～

日時	内容
2月3日(月)	令和6年度 第3回 営農担当部課長会議
2月5日(水)	JA農産物直売所連絡協議会 第5回連絡会議
2月5日(水) 10:30～	いしかわ園芸振興推進本部委員会 @農業会館6階
2月6日(木)	GH農場評価会
2月7日(金)	JAグループ石川出向く活動パワーアップ大会 JAグループ石川営農指導実践大会
2月13日(木)	令和6年度 第3回 営農販売改革推進会議
2月20日(木)	JA営農指導実践全国大会(Web併用)

【お問い合わせ先】 JAグループ石川営農戦略室 福田
TEL: 076-240-5052 FAX: 076-240-9120

